

これまでの推進協議会の議事概要(抜粋)

第1回(平成25年5月31日)

市町村	第1回推進協議会(H25.5.31)における主な意見・課題
新潟市	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域内の上・中・下流域が連携しながら、流域の安全度を高める治水対策が重要。 ■信濃川下流域の関係機関が一層連携し、効果的・効率的に地域防災力の向上を図る治水対策を推進することが必要不可欠。 ■基礎自治体の立場で言うと、さらに多くの方に知っていただく努力もやりながら、消防団員確保にも努めていきたい。
燕市	<ul style="list-style-type: none"> ■隣接の三条市と連携した内水対策を実施している地区もあり、今後も水害に強いまちづくりに取り組んでいきたい。 ■中ノ口川あるいは信濃川の下流域の容量を増やすための色々な取り組みを国、県でやっていただきたい。 ■今まで大きな災害に見舞われる経験というものが幸いにしてなかったということで、逆に色々なノウハウがまだ蓄積されておらず、住民の問題意識も他市町村に比べるとそれほど高くない。
田上町	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域の関係機関が一層連携し、効果的・効率的に地域防災力の向上を図る治水対策を推進することが必要不可欠。 ■田んぼダムの活用とか、あるいは調整池の整備により、少しでも信濃川への流出の軽減になればと思っている。
見附市	<ul style="list-style-type: none"> ■実際に田んぼダムを効果的にするように農家の方にある程度主導で動いてもらう必要がある。 ■信濃川下流域の自治体等が発信する情報を共有できるような仕組み(プラットフォーム)の検討が必要。 ■災害時に活躍している消防団は海外でも評価が高いが、なり手がいない等の課題もあり、さらなるPRが必要。
加茂市	<ul style="list-style-type: none"> ■国、県におかれても、何とかもう一本、関屋分水路級の分水路をぜひ掘削する構想を作ることに着手していただきたい。 ■加茂川の下流部の河道掘削、下条川の堤防嵩上げを実施して頂きたい。 ■洪水ハザードマップ作成の手引き(改定版)が通達されたことなどもあり、洪水ハザードマップを作成していきたい。 ■水害時などにおける頼みの綱は消防団であり、それでも困難な場合は建設業であり、両者は非常に重要。 ■避難勧告は、住民の方々は避難していいのか、避難して悪いのかわからないので、やるなら避難指示がいいということを実感した。
三条市	<ul style="list-style-type: none"> ■水害においては水平避難だけが全てではないのではないかとことを申し上げてきた。 ■信濃川下流域内で整備中又は、既存の防災ステーションや資料館等が防災教育の拠点となって連携し、人と人の交流を通じて、信濃川下流域の防災意識向上に繋げていく必要がある。
弥彦村	<ul style="list-style-type: none"> ■多目的に使用できる災害避難施設を整備し、利活用している。
長岡市	<ul style="list-style-type: none"> ■自治会等の役員が毎年代わる場合もあるため、洪水時などの避難場所等に関して、定期的に説明することが重要。
新潟県土木部	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域において、信濃川本川と連携しながら河川改修等を実施しており、今後も関係機関と連携しながら治水対策を進めていきたい。
新潟県農地部	<ul style="list-style-type: none"> ■信濃川下流域内にある農業用排水施設を活用し、地域防災力向上に向けて協力していきたい。
新潟県防災局	<ul style="list-style-type: none"> ■災害の予防及び発生時の対応に万全を期すよう、防災情報の関係機関への提供及び共有に関して、今後も緊密に取り組んでいきたい。
北陸地方整備局河川部	<ul style="list-style-type: none"> ■関係機関との連携を図りながら、治水対策を進めていきたい。 ■洪水ハザードマップ作成の手引きの改定に伴い、洪水ハザードマップ作成に関して、最大限の支援をしていきたい。
北陸農政局整備部	<ul style="list-style-type: none"> ■過去に整備した排水機場などが老朽化してきており、今後、これらの施設を順次、更新していきたい。

これまでの推進協議会の議事概要(抜粋)

第2回(平成26年3月13日)

市町村	第2回推進協議会(H26.2.13)における主な意見・課題
燕市	■国の社会資本整備総合交付金について補助率のかさあげについて検討して頂ければ事業がより進捗し、本川の被害軽減につながる。
加茂市	■大河津分水路の出口を広げることは絶対に必要である。 ■関屋分水路規模の分水路をもう一つ造るべきである。
五泉市	■早出川流域の砂防堰堤が一杯になっており、対策を考えていかななくてはならない。
新潟県土木部	■平成23年7月の新潟・福島豪雨を契機に相互の協力や施設管理者の連携が課題として顕在化してきたということで、各管理者から構成される内水氾濫対策検討会を立ち上げた。その中で、施設操作の連携による被害軽減に向けた検討を行った
新潟県防災局	■新潟県内は、人口あたりの消防団員数というのは相当高い割合ではあるが、長期的に団員数が減っているという状況であり、市町村と連携して対応を考えていく必要がある。
北陸農政局整備部	■田んぼダムの維持管理や運営などの地域活動の対する国からの恒常的な支援を受けられるようになったことが大きい。